FFGビジネスコンサルティングの

# ちょっと釣り道（つりみち）

［長崎・これから編］

3

1

2

① 「太刀魚」釣れたけどペーパーナイフ　② カワイイ豆アジ　③ 長崎市の海をバックに

## 本日の釣り道は帰任した長崎で釣り！

「長崎は今日も雨だった」

その辞令は突然に来た。

長崎の地でようやく法人担当者として馴れてきたかなと思えてきた夏の終わり、福岡に転勤になった。そこでは法人のお客様同士を紹介し結びつける仕事をする部署だった。不慣れな土地で慣れない仕事に戸惑いながらも一生懸命日々を過ごしていると、今度はお客様同士を結びつけるビジネスマッチングのシステムを構築する担当に任命された。

全くスキルも経験もないシステム関係の仕事ということもあり苦労したが、システムが完成し稼動し始めると、お客様同士が結びついてビジネスが成約していくのを見て、自分の仕事になんとも言えない満足感と達成感、そして新しい誇りが湧き上がることを感じた。

まだ暑い初秋のその日、また辞令は唐突だった。今度は長崎市内に戻ることに。福岡の仕事で長崎は海が豊かであることを聞いていた私は、子供の頃に経験した釣りで、長崎の海で遊んでみつか、と思った。会社の同僚に道具を借りて手ほどきを受ける。足場の良い港で言われたとおりやってみると、いきなり手元をひったくる衝撃が襲った。巻いてみると後は大人しくて、上げるとリボン程度の太さの太刀魚の幼魚がぶらさがっていた。その魚体はギラギラと鏡の様にまだ目覚めぬ長崎の夜景の残光を反射し輝いていた。

「これじゃ、太刀というよりペーパーナイフやし（泣）！」

稲佐山から晩秋の澄みきった心地よい風が降りてきて、頬にさわりサカナを揺らす。雨は上がり朝陽がさしてきた。それはどこか懐かしいけど新鮮な心持ちをくれた。

ここは長崎。いろいろな歴史と、これからなにか新しいことが始まる予感がする街。

その後私の竿に、生命反応が伝わることはなかった。それでもいい。私は、この街で私の「釣り道」を、これからも歩いていこうと決めた。